

御 館 中



学校だより

郡山市立御館中学校

平成 23 年 10 月 27 日発行 特別号

文責 校長 塚本 英樹

平成 23 年度 学校評価（中間）について

今年度の本校の「学校経営・運営ビジョン」の重点目標の達成具合について、生徒及び保護者に実施したアンケートの結果を参考にしながら教職員で自己評価を行いました。保護者の皆様にはお忙しい中アンケートにご協力いただきありがとうございました。

その後、去る10月18日に、学校評議員、小学校校長、PTA三役による「学校評価委員会」を開催し、「自己評価の結果と今後に向けて」に対するご意見をいただきました。その内容は以下のとおりです。

この結果やご意見について、すぐにも改善できるものと来年度の計画等に取り入れていくものがありますので、それを十分に検討し学校経営・運営に生かしていきたいと考えます。また、2月には今年度のまとめとなる2回目の学校評価を行う予定ですので、保護者の皆様には再度アンケートへのご協力をよろしくお願いします。

<自己評価の結果と今後に向けて>

◎教育目標「夢」について

自己評価の結果	今後に向けて
・「『夢』を持ち、学習する目的をはっきり言うことができるようになった」に対して、学年間の評価（生徒）が分かれた。	・3年生に対しては、個人面談を充実させるなどして個に応じたよりきめ細かな進路指導を心がけ、目標をしっかりと定めさせることで、集中して学習に取り組めるようにしていきたい。 ・1、2年生に関しては、より具体的な夢、目標とまではいかないかもしれないが、意欲を大切にして指導していきたい。今年度、高校説明会に3年生とともに参加させる機会を持ったことは、より刺激になったと思われる。今後も夢が持てる計画的なキャリア教育を実践していきたい。

☆「確かな学力の定着」について

自己評価の結果	今後に向けて
○「授業を通して、わかる・できる喜びを感じ、力がついている」、「選択教科に積極的に取り組み、技能向上・学力向上に努力している」に対する生徒自身の評価が高かった。また、「生活記録ノートを活用し、忘れ物をなくすとともに文章表現力を伸ばすこと」や「課題テーマ計画表に意欲的に取り組ませ、家庭学習習慣を身につけさせること」、「総合的な学習の時間で、歌舞伎学習、発表などに意欲的に取り組ませること」に対する評価が保護者・生徒ともに高かった。	・今後も、「本時のめあて」「本時のまとめ」を明らかにした板書構造を大切にし、この時間で何を学び、何がわかり、何ができるようになるばよいかを明らかにした授業を継続していくとともに、学習の基本となる学習用具をきちんと揃えることや家庭学習の習慣が身につくよう指導していきたい。
●「授業を通して、子どもにわかる・できる喜びを感じさせ、力を付けること」、「子どもにあった学習方法を個別に指導すること」に対する評価が低かった。	・家庭学習で調べた内容を授業の中で活用したり、家庭学習で練習してきたことを授業の中でテストしたりするなど、課題テーマ計画表を授業と関連させながら指導していきたい。さらに、授業中はもとより、適宜、二者相談などで生徒の願いや悩みを把握し個別に学習方法を指導するなどきめ細かく指導していきたい。

☆「表現力の育成」について

自己評価の結果	今後に向けて
○「自分の考えを持ち、思っていることを人に伝えることができるようになってきている」について、生徒自身の評価は高く、保護者の評価は低かった。	・授業をはじめ生活記録ノートの活用により文章表現力を伸ばす取り組みを充実させるとともに、今後も少人数のよさを生かし、授業をはじめ、総合的な学習の時間の歌舞伎学習や学校行事、集会など様々な機会に発表の場や機会を設けて表現力の育成に努めていきたい。

☆「自律心の育成と心身の健やかな鍛錬」について

自己評価の結果	今後に向けて
○「部活動に積極的に参加し、技術の向上を目指すとともに、自己管理にも気を配るよう指導する」の評価が高かった。	・少人数ではあるが、部員が一丸となって取り組む指導を心がけることで、一人一人が支え合いながらチームとして持てる力を十分に発揮させることができた。今後も、技術の向上はもとより、心身ともに健康な生徒の育成に努めたい。
●「心身ともに健康で、何事にも積極的に挑戦し、試練に耐えることができるようになってきている」という評価がやや低かった。	・思春期を迎え、少人数の固定化された人間関係の中で、消極的になったり、自分の居場所について考えたりする場面も見られる。生徒同士互いのよいところを認め合うことやほめて認める指導を通して、自分のよさに気づかせ、自信を持たせ、何事にも積極的にチャレンジする意欲を育てていきたい。

☆「奉仕の精神の涵養」について

自己評価の結果	今後に向けて
○「奉仕の心を持ち互いに協力し、助け合いながら進んで社会に奉仕しようとする姿になってきている」の評価が高かった。	・生徒は自分の仕事に責任をもってしっかりと行うことができている。今後は、与えられた、決められた活動を進めるだけでなく、自分たちで気づき、考え、決めた活動を行えるよう支援していきたい。
●「思いやりの心を持ち、他人の喜びや心の痛みのわかる、たくましい、心豊かな子どもになるように指導してきた」の評価が保護者の評価に比べて低かった。	・少人数の固定化された人間関係の中での生徒指導は、ある意味難しい側面を持っているが、今後も互いのよさを認め合い、支え合う温かい人間関係づくりを基本に据え、道徳教育を学校全体で進めていきたい。

※その他

◇あいさつについて

規律委員会を中心に毎朝あいさつ運動に取り組んでおり、あいさつがしっかり身に付いてきている。朝教室に入るときなど、子どもたち同士であいさつがさらに積極的に交わされるように指導していきたい。

<学校評価委員の主な意見>

- 切磋琢磨することや競争心が足りない感じがするので、高校に進んだり、社会に出たりしても臆することのないように、力強さ、たくましさ、向上心を身に付けさせることが必要である。
- 対大人、対他人との関係の中で、言葉遣いも含めて、コミュニケーションがしっかりとれるようになってほしい。
- スピードを出しすぎないことや左側を通行することなど、自転車の安全な乗り方について徹底させてほしい。
- 小中で危険箇所マップを共有し、子どもたちの安全に向けて補導部などで有効に活用してほしい。
- あいさつは、学校内ばかりでなく、地域においても積極的にできるようになってほしい。

※ 上記のとおり、「子どもたちの安全に関すること」や「社会人として必要な基本的なこと」などについてのご意見をいただきましたが、今後に十分生かしていきたいと思っております。ご出席いただきました学校評価委員の皆様、ありがとうございました。